“ セガ・ポップコーン自販機シリーズ ”

# スパークセンサーの定期点検

カップ内に金属部品が混入したり、電子レンジ内に異物（油、塩等）が付着したりしたときに発生するスパークによる焼損事故を未然に防止するため、下記手順で、月一回スパークセンサーの定期点検をお願いいたします。
現行機の「それいけ！アンパンマン　ポップコーンこうじょう 2」においてはスパークセンサーが動作しないと正常運営出来ないしくみになっていますので、対象外となります。

- **事故防止のために、作業は店舗内で機器の保守管理に携わる方が行ってください。**
  **保守管理に関する知識や技術を持たない方は絶対に作業しないでください。**
  **保守管理に携わる方が居ない場合は、製品の取扱説明書記載の事務所または製品購入先まで作業を依頼してください。**
- **本書が説明する作業は１名ではできません。**
  **作業を安全かつ確実に行うため、２名の作業者が必要です。**
- **配線を傷つけないように注意してください。**
  **配線を傷つけると、感電、短絡事故の原因となります。**
- **コネクターの抜き差しは、互いのコネクター方向やピン数を確認して、必ずコネクター部を持ち、不用意に荷重を加えないように作業してください。**
  **不用意に作業すると、ワイヤーとコネクター端子金具の接続部を傷つけ、短絡、火災事故の原因となります。また、接続不良の原因となります。**
- **作業中に、スパークセンサーの不良を発見した場合はただちに製品の運営を中止して、製品の取扱説明書記載の事務所または製品購入先に修理依頼してください。**
  **不良を放置したまま運営すると、スパーク発生による焼損事故の原因となります。**

- **ドアの開閉時には手指を挟まないように注意してください。**
- **成型部品の取り扱いには注意してください。無理な荷重や衝撃を加えると破損して、破片、ヒビや欠けによる負傷事故の原因となります。**

## [作業人数と必要な工具等]

作業人数　・２名
工　　具　・細いマイナスドライバー
　　　　　・懐中電灯（必要に応じて）
　　　　　・　マスターキー

## [動作確認と調整方法]

① マスターキーで、キャビネット背面のバックドアを開け、ブレーカー（電源スイッチ）をOFFにします。

写真１　キャビネット背面

② スパーク検出制御基板に接続している、２カ所のコネクターが確実に接続しているか確認してください。（写真２参照）

③ スパーク検出用ボリュームＶＲ１を、細いマイナスドライバーで右（時計回転方向）へ最大まで回してください。

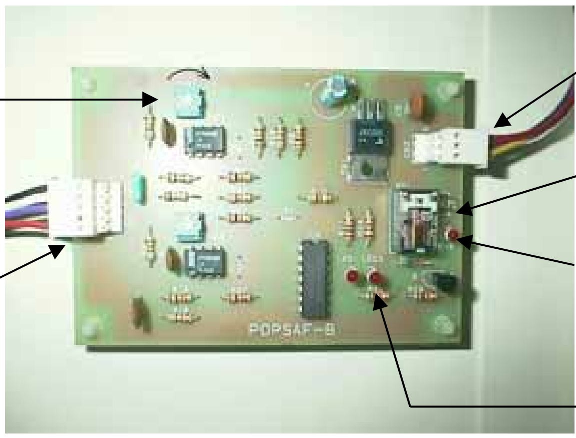


写真２　スパーク検出制御基板

④ 電子レンジ背面上部にある、スパークセンサーのテストコネクター（１Ｐ）を現在、接続している黄色線と黄色線を外し、黄色線と白線側に差し替えます。

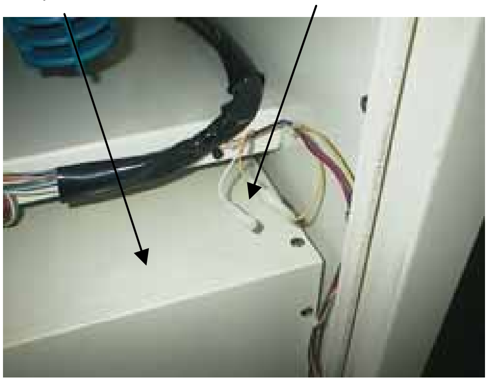


写真３ 電子レンジ背面

⑤ ブレーカーをＯＮにします。

このとき、スパーク検出制御基板のリレーからジーと連続音がして、スパーク出力ランプが点灯している場合は、スパーク検出が正常に機能しているので手順⑨へ進んでください。

点灯していない場合は次の手順⑥へ進んでください。

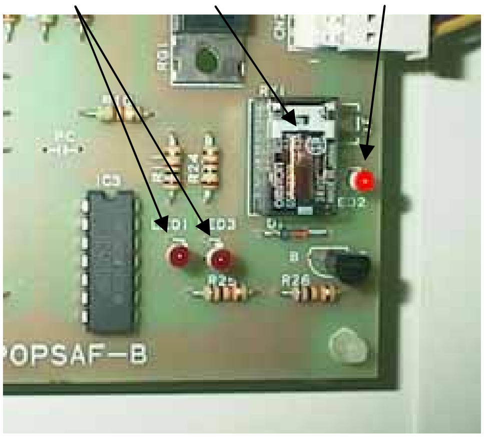


写真４ スパーク検出制御基板

注１．リレーからジーと音がするのは、電子レンジの横にある蛍光灯の電源周波数による点滅を検出しているためです。
ただし、蛍光灯が切れている場合や暗くなっていると、蛍光灯の点滅を検出できませんが異常ではありません。

注２．スパーク出力ランプが点灯している場合は、手順⑥～⑧の作業を行わないでください。説明している各ランプの点灯の仕方と一致しません。

⑥ １人がキャビネット背面のスパーク検出制御基板側へ、もう１人はキャビネット正面の電子レンジ正面側に移動します。

⑦ マスターキーで電子レンジ正面のキャビネットドアを開け、電子レンジ内側に手を入れてＣＤＳに当たる光りを手で遮り、素早く手を除けて光りを当てることを繰り返します。

ＣＤＳ基板

写真５ 電子レンジ正面

あるいは手で光を遮るかわりに、懐中電灯等をレンジ開口側からレンジ内に向けた状態で点灯と消灯を繰り返します。

但し、ペンシル型のような小さいものは、直接レンジ内部のＣＤＳに向けて点灯してください。

懐中電灯

写真６ 電子レンジ正面

⑧ 手順⑦で、ＣＤＳに光りが入った瞬間、スパーク検出制御基板にあるスパーク入力ランプとスパーク出力ランプが同時に一瞬点灯することを確認してください。

注：スパーク入力ランプおよびスパーク出力ランプが点灯しない場合は、基板不良と考えられます。放置したまま運営すると、スパーク発生による焼損事故の原因となりますので、製品の運営を即刻中止して、製品の取扱説明書記載の事務所または製品購入先に修理依頼してください。

一瞬点灯

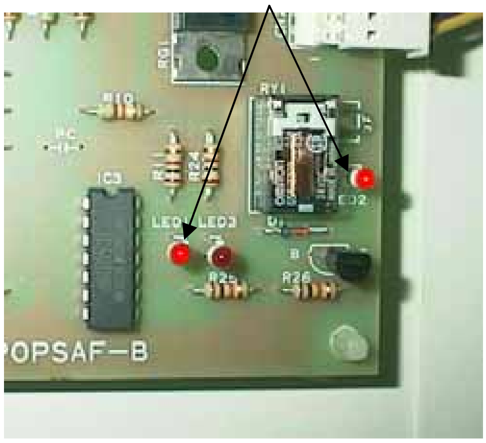


写真７ スパーク検出制御基板

⑨ ブレーカーをＯＦＦにして電源を切り、手順④で差し替えたテストコネクターを元通り黄色線と黄色線側に接続してください。

⑩ ブレーカーをＯＮにし、マスターキーでキャビネットの各ドアを閉めて作業完了です。